（書式２）

＜事務局使用欄＞受付番号：　　－

「２０２２年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部４年　宮内鴻

私は、今回のベトナム短期留学プログラム以前にも、語学研修や観光などで数回海外に訪れたことがあった。しかし、今回の短期留学では今までの海外訪問とは全く異なる非常に価値のある経験をすることができた。まず１つ目に、現地の大学に通うことができたことが挙げられる。２週間の短期間とはいえ、現地の大学（VNU）に通い、実際に講義を受けたり聴講したりする経験はめったにできる経験ではなく、海外留学の大まかなイメージをつかむことができた。また、現地で研究している教授から直接教えを請うたり、海外で外国語として日本語をどのように学ぶかを知ることができたりなど、日本では得ることのできない多くのことを学ぶことができた。２つ目に、現地の学生と授業内外で日常的に交流することができたことが挙げられる。日本国内でも海外から来た留学生と交流する機会はあったが、日本人よりも外国人の方が多い環境で、また、特定の国籍の人々（ベトナム人）からその国の言語や文化について深く知ることができる機会はほとんどない。彼らとともに食事をしたり、実地研修で建造物や自然物についての解説を受けたりすることで、非常に楽しく貴重な思い出を作ることができた。３つ目に、現地の学生と最終日に共同発表をすることができた点が挙げられる。京大生と現地の学生とで合計 10 名ほどの班を作り、日本とベトナムの文化や社会構造などについての比較をアンケートや議論を通じて行い、授業最終日に発表した。その過程で、現地の学生にとって日本語は外国語であるためネイティブスピーカー同士で共同作業をするよりやや障壁がある状況で、想定よりはるかに深い内容について意見を交わしながら一つのものを作り上げた経験は、今回の研修で最も貴重であったと言っても過言ではないほど価値の高いものであつた。上述した３つの経験から、人種や文化背景が異なっていても、お互いの考え方を尊重し理解する気持ちを持つことで、心を通わせる事ができ、日本では得られない学びや気付きを得ることができるということが分かった。今後、自分がグローバルな視野をもって社会人として働いていくためにも、将来海外での大学院進学を視野に入れたいと考えるようになった。

また、もう一点、自身の将来の進路への考え方に変化を与えた気づきとして、ベトナムでの日本の経済的・文化的な影響力の大きさと、その将来・行く末についての不安が挙げられる。日本国内で生活している身として、日本の経済的な世界への影響力について、特に IT 分野などの遅れから悲観的な意見が目立つように個人的には感じている。しかし、今回初めてベトナムに訪れて、少なくとも今の 2023 年時点ではベトナムにおいて日本の影響力はかなり高いと感じた。IT 分野では確かに GAFAM やサムスン電子、中国系企業の強さを感じたが、バイクや自動車、家電などの製造業の面、スーパーなどの小売業の面では数多くの日本企業がベトナム社会に浸透していると感じた。また、文化的な面でもアニメや漫画、日本食などの人気は想像以上であった。一方で、自動車やテレビなどの製造業及び小売業では韓国企業も日本企業と並ぶほどの影響力があり、新しく作られたハノイのメトロシステムは中国が受注し設計工事を請け負った。また、文化的にも韓国ドラマや K-POP もかなりの人気を感じた。実際、現在ではベトナム国家大学の東洋学部では日本学科よりも韓国学科の方が人気が高いようだ。このような現状から日本の影響力を維持し向上させていくためには、日本企業は今以上に東南アジア市場に力を入れていかねばならないと考える。ベトナムを含め、東南アジア市場は今後ますます人口及び経済が発展していくと考えられている。私は、４月から働く職業的に、それら日本企業の東南アジア市場への進出、強化の支援をすることができる可能性がある。そのため、今回の研修を通じてベトナムのことが個人的にも大好きになったので、将来ベトナムに駐在して、日本企業のベトナムでの活動の支援、及びベトナムを含む東南アジアのさらなる発展に寄与したいと考えるようになった。